

iCloudとは



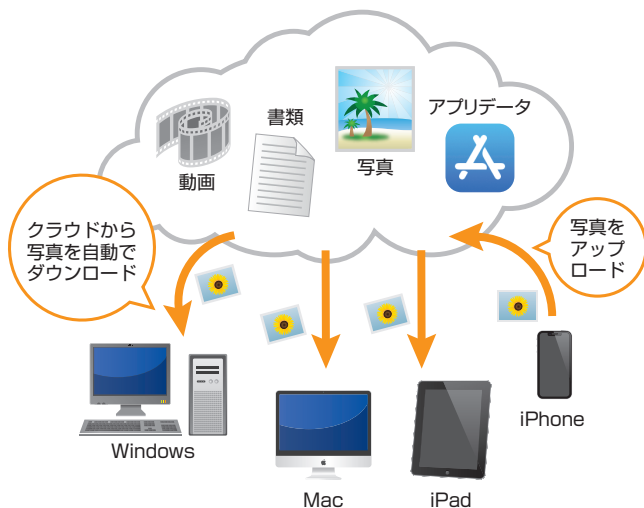
iCloudは、Appleが提供するクラウドサービスです。iPhoneやiPadなどのiOS搭載デバイスのデータバックアップや、パソコンを含むデバイス間でのデータ共有の橋渡しをする重要なパイプとなり、データの共有だけでなく、さまざまなサービスを利用できます。

無料で利用できるクラウドサービス

iCloudは、インターネット上のサーバを通じて写真や書類、カレンダーやメモといったデータを一元管理し、パソコンやiOSを搭載した端末との間で共有するためのクラウドサービスです。iCloudを使用することで、普段使っているどのデバイスからでも、常に最新の情報にアクセスできるようになります。

iCloudは、iOS 5以降、Mac OS X Lion 10.7.5以降を搭載したデバイスに標準でインストールされていますが、すべての機能を利用するためには、iOS、macOSともに最新バージョンへのアップデートが必要です。また、Windowsパソコンでは、専用のソフトウェアをインストールすることでiCloudが利用できます。

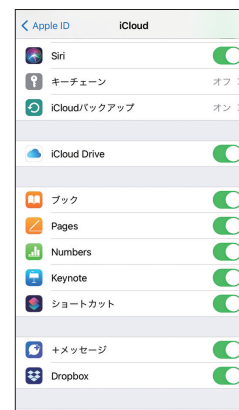
iCloudのしくみ



iCloudでどんなことができる?

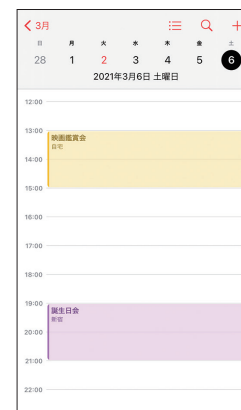
iCloudを有効にした状態で、パソコンやiPhoneからカレンダーに予定を追加すると、同じiCloudアカウントでサインインしたほかの端末のカレンダーの情報も、自動で更新されます。また、「共有アルバム」を利用すれば、家族や友人と写真を共有することができるので、旅行やイベントなどの写真を複数の人で閲覧したいときに便利です。そのほかにも、iCloud対応アプリで作成した書類をiCloud Driveに保存しておけば、バックアップはもちろん、いつでもどのデバイスからでも続きを編集することができます。

● アプリのデータを共有



iCloud Drive対応のアプリは、作成したファイルがiCloud Driveに保存され、ほかのデバイスからもアクセスできます。

● カレンダー・メールの共有



カレンダーやメール、連絡先などの日々更新される情報も、iCloudで常に最新の状態で更新されます。

MEMO

クラウドとは

クラウドとは「クラウドコンピューティング」の略称で、データを自分のパソコンのハードディスクに保存する代わりに、インターネットなどのネットワーク上のストレージで保存、運用するしくみやそのサービスを指します。データをネットワーク上に置くことで、ネットワークにアクセスできるすべてのデバイス間でデータを共有できる利便性から注目を集め、多くのサービスが提供されています。iCloudもそのうちの1つで、iPhoneやiPadとの親和性の高さや、5GBまで無料といった利点があります。

iCloudが利用できる環境



自宅ではパソコン、外出先ではiPhoneといったように、状況に応じて複数のデバイスから利用できるiCloudですが、利用するデバイスによって条件が異なります。ここでは、iCloudが利用できるデバイスやその条件を確認しておきましょう。

iCloudの推奨システム条件

iCloudを利用する際、以下の推奨システム条件が満たされていれば、快適にiCloudの最新機能を活用することができます。また、各機能に必要な最小システム条件は、Appleの公式サイト (<https://support.apple.com/ja-jp/HT204230>) で確認することができます。

iPhone / iPad	Mac	Windows	Apple TV
• iOS 14またはiPadOS 14 • iOS用iWork (Pages 2.5以降、Numbers 2.5以降、Keynote 2.5以降)	• macOS Big Sur • Safari 9.1以降、Firefox 45以降、Google Chrome 54以降、Opera • Mac用iWork (Pages 5.5以降、Numbers 3.5以降、Keynote 6.5以降)	• Microsoft Windows 10 • Windows用iCloud 11以降 • iTunes 12.7 • Outlook 2016以降 • Firefox 45以降、Google Chrome 54以降 (デスクトップモードのみ)、Microsoft Edge、Opera	• tvOS 13以降

iCloudのストレージプラン

iCloudを設定すると、5GB分のストレージを無料で利用できるようになりますが、容量が足りなくなると、データがiCloudにバックアップされなくなったり、新しい写真やビデオがiCloud写真にアップロードされなくなったりします。そのようなときは、iCloudストレージプランをアップグレードして容量を増やしましょう (Sec.57参照)。家族と分け合えるプランもあるので、活用してみてください。

容量	料金 (月額)
50GB	130円 (税込)
200GB※	400円 (税込)
2TB※	1,300円 (税込)

※家族とストレージを分け合うことができます

iCloudが利用できるデバイス

iCloudは、iPhoneやiPad、Apple WatchといったApple製品デバイスのほか、MacやWindowsパソコン、Apple TVといったデバイスで利用することができます。利用するデバイスによってiCloudを使うための条件が異なるので注意が必要です。なお、本書ではiPhone 11 (iOS 14.4)、Mac (macOS Big Sur 11.2)、Windows (Windows 10) を使用して解説しています。

● iPhone / iPod touch / iPad / Apple Watch



最小システム条件はiOS 5以上です。iOSのアップデートは、「設定」アプリから行います。

● Windows



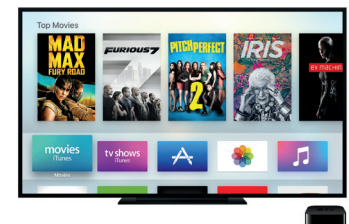
Windows 7以降のOSを搭載したパソコンに、「Windows用iCloud」をインストールする必要があります。

● Mac



Mac OS X Lion 10.7.5以降のOSを搭載したMacに対応しています。macOSのソフトウェアアップデートは、MacのApp Storeから行います。

● Apple TV



Apple TVソフトウェア 5以降を搭載したApple TVに対応しています。Apple TVでは、iCloud写真や共有アルバム、ファミリー共有などの一部の機能が利用できます。

iCloudを有効にする



iOS搭載デバイスでiCloudを利用するには、初めにiCloudを有効にする必要があります。iCloudでデータを同期することで、ほかのデバイスとの連携や機種変更時の設定がかんたんにできるようになります。

iPhone / iPadでiCloudを有効にする

- ① ホーム画面で<設定>をタップします。



- ② <iPhoneにサインイン>をタップします。



- ③ Apple IDを入力して<次へ>をタップします。続けてパスワードを入力し、<次へ>をタップします。Apple IDを取得していない場合は、Sec.04を参考に作成します。



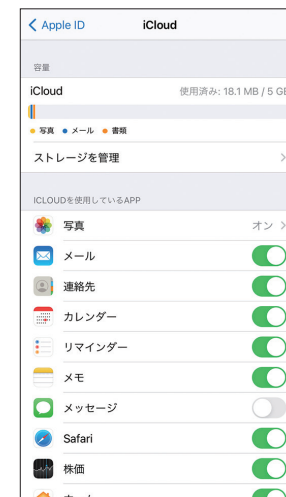
- ④ パスコードを設定している場合は、パスコードを入力します。



- ⑤ iCloudが有効となります。iCloudを確認したい場合は、<iCloud>をタップします。



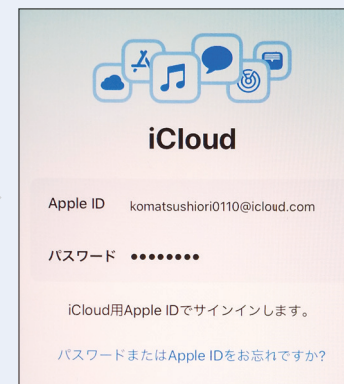
- ⑥ iCloudで有効になっているアプリなどを確認することができます (Sec.09参照)。



MEMO

いつiCloudを設定する?

iOSやmacOSを搭載したデバイスの初回起動時にも、iCloudの有効化を設定できます。iCloudを使ったことがある場合は、新しいデバイスを初めて起動するタイミングでiCloudを設定することで、iCloudバックアップに保存したデータを同期してすぐに利用できるようになります (Sec.63参照)。





iCloudを有効にする

最新のmacOSには、初めからiCloudが組み込まれています。そのため、Macからサインインするだけで、すぐにフル機能のiCloudが利用できます。まずは、iCloudを有効にする設定を始めましょう。

iCloudの利用を開始する

- ① Dockのをクリックして、「システム環境設定」アプリを起動します。

クリックする



- ② <サインイン>をクリックします。

クリックする



- ③ Apple IDを入力して<次へ>をクリックし、パスワードを入力して<次へ>をクリックします。Apple IDを持っていない場合は、<Apple IDを作成>をクリックして新規IDを作成します。



- ④ Apple ID登録時に設定した2ファクタ認証を行うためのデバイスに通知された確認コードを入力します。

入力する



- ⑤ デバイス (iPhone) にパスコードを設定している場合は、パスコードを入力します。

入力する



- ⑥ 位置情報の使用確認が表示されたら、<許可>をクリックします。位置情報を使用しない場合は、<キャンセル>をクリックします。

クリックする



Windows用iCloudをインストールする

iCloudは、パソコンでも利用できます。Windowsパソコンの場合は、iCloudとデータを同期するためにWindows用iCloudというソフトウェアをインストールする必要があります。WindowsでiCloudを利用する準備を行いましょう。

Windows用iCloudをインストールする

- 1 Webブラウザ（ここでは「Microsoft Edge」）を起動し、「<https://support.apple.com/ja-jp/HT204283>」にアクセスして、<Microsoft StoreからWindows用iCloudをダウンロードする>をクリックします。



- 2 「サインアップする」画面が表示されたら、×をクリックして閉じます。



- 3 <入手>をクリックし、<開く>をクリックします。

② クリックする

① クリックする



- 4 <入手>をクリックすると、ダウンロードが開始されます。

クリックする



- 5 ダウンロードが完了したら、<起動>をクリックします。

クリックする



- 6 iCloudが起動します。サインインについてはSec.19を参照してください。



MEMO

同時にiCloud共有アルバムもインストールされる

Windows用iCloudをインストールすると、同時にiCloud共有アルバムもインストールされます。



iCloud写真のしくみ



「iCloud写真」はiCloudに写真を保存できるサービスです。ここではiCloud写真のしくみと、よく似た機能のマイフォストリームとの違いについて解説します。違いを理解したら、iCloud写真を有効にしてみましょう。

iCloud写真のしくみ

iCloud写真は、iCloudアカウントを使ってすべてのデバイスの写真と動画をiCloudにアップロードして、アップロードした写真と動画をそれぞれのデバイスのライブラリに同期するサービスです。



デバイスだけでなくブラウザからでも写真・動画を閲覧できるようになります。

●マイフォストリームとiCloud写真の違い

マイフォストリームには「最大1,000枚の画像ファイルを30日間保存する」といった制限がありますが、iCloud写真にはそうした制限がありません。ただし、iCloud写真でアップロードした写真はiCloudのストレージに保存されるため、ストレージの容量が消費され、無料で利用できる5GBでは容量が足りなくなる可能性があります。なお、「iCloud写真」と「マイフォストリーム」は、両方有効にすることができます。

	マイフォストリーム	iCloud写真
保存できるデータ	写真 (Live Photos除く)	写真 (Live Photosも含む)、動画
iCloudストレージ	使用しない	使用する (5GBまで無料)
解像度	パソコン: フルサイズ デバイス: 最適化	iCloudにフルサイズ保存 (デバイスは設定に依存)
保存枚数	最大1,000枚	無制限 (ストレージ容量に依存)
保存期間	保存日より30日間	無制限
無効にした場合	写真が消える	写真・動画がそのまま残る※
ブラウザでの閲覧	不可	可 (iCloudの「写真」)

※iCloud写真を無効化後、iCloudストレージから削除するには、ブラウザでiCloudにアクセスして削除する必要があります。

iCloud写真を有効にする

① P.32手順①を参考に「Apple ID」画面を表示し、<iCloud>をタップします。



② <写真>をタップします。



③ 「iCloud写真」の○をタップします。



④ 「iCloud写真」がONになり、iCloud写真が有効になります。なお、iCloud写真を有効にすると、iTunesで同期した写真は削除されます。



iPhone / iPadで iCloud写真の写真を閲覧する



iCloud写真のデータは、iPhone / iPadでは「写真」アプリから閲覧することができます。また、「写真」アプリには、複数の表示モードがあります。自分の閲覧しやすい表示モードで写真を閲覧しましょう。

5 iCloud写真の写真を閲覧する

- ① ホーム画面で「写真」をタップします。



- ② 「ライブラリ」をタップし、「すべての写真」をタップします。なお、この手順では、iCloud写真に保存していない、デバイス内のみの写真も表示されます。



- ③ 閲覧したい写真をタップします。

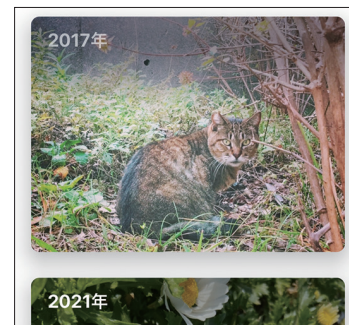


- ④ タップした写真が表示されます。



「写真」アプリの表示モード

「写真」アプリには、3つの表示モードがあります。自分の閲覧しやすい表示モードで写真を閲覧しましょう。なお、iCloud写真とマイフォトリームをどちらも有効にしている場合、ほかのデバイスからマイフォトリームに追加された写真もここから閲覧できます。



● 「ライブラリ」

「ライブラリ」タブでは、画面下の「年別」「月別」「日別」「すべての写真」をタップすることで、表示する写真を切り替えることができます。任意の写真をタップすると、タップした写真が拡大して表示されます (P.82手順③～④参照)。



● 「For You」

「For You」タブでは、「メモリー」機能で、写真に写っているイベントや場所を特定し、同一の写真をまとめてくれます。複数人で写っている写真では、それぞれの顔を認識して、その友だちと共有することをおすすめしてくれます。



● 「アルバム」

「アルバム」タブでは、自分で作成したアルバム、共有アルバム、写真やビデオを種類別にまとめたコレクション (「セルフイー」「ポートレート」「スロー」など) が表示されます。

iCloud Driveで できること



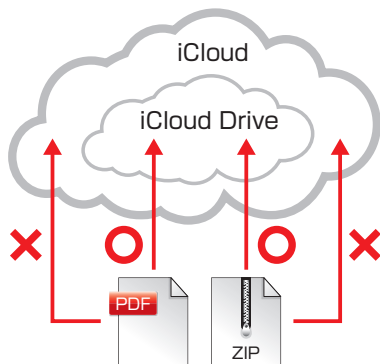
iCloud Driveを利用すれば、複数のアプリのファイルを、iCloudの中に安全に保存しておき、WindowsパソコンやMac、iPadなどのApple製品といった複数の機器からいつでもアクセスできます。

iCloud Driveとは

iCloud Driveは、iCloudのクラウドストレージ機能です。iCloudアカウントを取得することで利用することができます。iCloudストレージの容量内であれば、どのような形式のファイルでもiCloud Driveに保存することが可能です（1ファイルの最大サイズは15GB）。「OneDrive」や「Googleドライブ」、「Dropbox」といったサービスと同様の位置付けと考えてよいでしょう。MacおよびWindows搭載のパソコンのほか、iOS搭載デバイスでは、「ファイル」アプリから利用することができます。

● iCloudとiCloud Driveの違い

iCloud DriveはiCloudの機能の1つです。iCloud自体にもiCloudフォトライブラリやバックアップ機能によって、さまざまな形式のファイルをアップロードできますが、保存できる形式はサービスごとに画像ファイルや動画ファイルなど、決められた形式やデータのみに限られます。しかし、iCloud Driveに保存できるファイル形式に制限はなく、画像ファイルや動画ファイルはもちろん、PDFファイルや文書ファイルといった形式のファイルも保存することができます。



MEMO

「ファイル」アプリとは

「ファイル」アプリはiOS 11から標準アプリとして追加されました。iCloud Driveやデバイス内にあるファイルを一括で管理することができ、フォルダの作成やファイルの移動などもかんたんに行えます。

iCloud対応アプリと連携して利用できる

Webブラウザから利用できるiCloud.comでは、「Pages」「Numbers」「Keynote」といった、Apple製のアプリを利用することができます。その際、作成したデータはすべて自動的にiCloud Driveへ保存されるので、「パソコンで作成したファイルを、iPhoneを使って外出先で編集する」といったことも、ごく自然かつかんたんに行えます。

Pages

Pagesは、さまざまな書類を作成できるワープロアプリです。レポートや請求書はもちろん、封筒の書面や、名刺、ポスターを作成するためのテンプレートも用意されているので、文字だけでなく、写真をレイアウトした書類も作成できます。Wordファイルを開くこともできます。



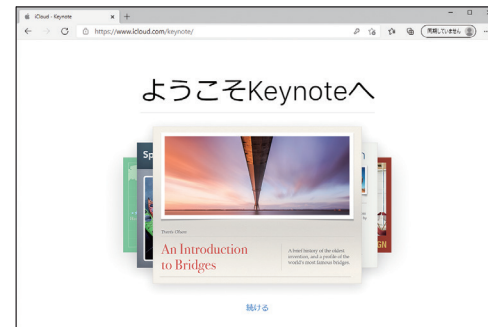
Numbers

Numbersは、表の作成や計算を行えるアプリです。「家計簿」や「貯蓄プラン」など、ビジネス以外にもさまざまな用途に対応したテンプレートが用意されているので、表計算ソフトが苦手な人でもかんたんに利用できます。Excelファイルを開くこともできます。



Keynote

Keynoteは、プレゼンテーション用のスライドを作成するアプリです。トラジションやエフェクトを使った、魅力的なスライドを作成することができます。また、スライド1枚ずつに対してもテンプレートを選択することが可能です。PowerPointファイルを開くこともできます。



ファミリー共有とは



「ファミリー共有」とは、家族でiPhoneやiPadを利用している場合に、家族の誰かがiTunes Storeで購入した音楽コンテンツやApp Storeで購入したアプリを共有できる機能です。購入時に利用するクレジットカードやそれぞれの位置情報も共有できます。

ファミリー共有とは

ファミリー共有は、Apple IDを設定したiPhoneやiPadどうしの詳細な情報を家族で共有できるサービスです。たとえば、家族間でApple IDでの購入に利用するクレジットカードを共有できるほか、位置情報を共有してお互いどこにいるかひと目でわかるようになります。購入済みのアイテムの共有のほかにも、管理者が登録したクレジットカードで支払いを一本化でき、また、保護者が子どものアプリ購入を制限できるのも大きな特徴です。ファミリー共有は、iTunes StoreやApp Storeのアイテム共有のほかにも、写真やカレンダー、リマインダーといったアプリでの情報共有、iCloudの容量共有（有料）が可能です。このように、ファミリー共有には多様な「共有」機能が用意されています。家庭の環境に合わせて必要な機能を効果的に利用しましょう。



Apple IDごとにクレジットカードを登録する必要がなくなり、アプリや音楽などもスムーズに購入できます。



「探す」アプリでは、家族の位置が常に表示されるようになり、「iPhoneを探す」機能も共有できます。

ファミリー共有でできること

コンテンツの支払い承認

管理者は、グループにいるメンバーがiTunes Store、iBooks、App Storeで購入したコンテンツの支払いと、支払いの承認をすることができます。購入の承認を求める設定を有効にしておくことで、ほかのメンバーがコンテンツを購入しようとしたとき、管理者に通知が届きます。管理者は自分のiPhoneやiPad上で、購入を承認または拒否できます。これは有料／無料にかかわらず、すべてのコンテンツの購入に適用されます。なお、承認設定の対象は19歳未満のメンバーです。

コンテンツの共有

ファミリー共有では管理者を含む最大6人まで、iTunes Store、iBooks、App Storeから購入したコンテンツを共有できるようになります。グループのメンバーが購入したコンテンツが、ほかのメンバーのiPhoneやiPadでも利用できます（ファミリー共有非対応のものは除く）。共有されたコンテンツは、それぞれのメンバーのiTunes Store、iBooks、App Storeにある「購入済み」タブに自動的に現れます。なお、管理者はコンテンツを個別に選んで非表示にすることができます。

専用の共有アルバム

共有メンバー全員の「写真」アプリに、共有アルバムが自動的に作られます。共有アルバムには、メンバーが写真やビデオの投稿、コメントを追加でき、新しい写真やビデオが追加されるとメンバーに通知が届きます。

専用の共有カレンダー、共有リマインダー

メンバーのカレンダーが作られ、メンバー全員がイベントや予定を確認、追加、変更できます。カレンダーに変更が加えられると、通知が全員に届きます。また、リマインダーをメンバーに送信できます。

現在地の共有

現在地を自動的にメンバーに知らせることができます。「探す」アプリや「メッセージ」アプリからお互いの位置を確認できます。また、紛失したメンバーのiPhoneやiPadを探すこともできます。

13歳未満の子どもApple ID作成

13歳未満の子どもが自分のApple IDを持つことができるようになります。管理者（保護者）が子どものApple IDを作成し、ファミリー共有のメンバーに加えます。13歳未満の子どもApple IDは、作成すると自動的に支払い承認の設定が有効になります。

iCloudで バックアップできるもの



iCloudでは、主に日常的によく使う項目のバックアップを行うことができます。ここではその種類をはじめ、iCloudとiTunesでバックアップを行う際の違いや、iCloudのストレージ容量などについて解説します。

iCloudでバックアップできるもの

iCloudでは、ホーム画面の配置や写真・動画のデータ、App Storeでインストールしたアプリの再ダウンロード、デバイスの各種設定などをバックアップ・復元できます。

● 写真・動画



過去に撮影した写真や動画は、iCloudのバックアップから復元されます。

● App Store



復元を行うと、同じApple IDのデバイスでインストールしたアプリが再インストールされます。

● iCloudでバックアップ・復元ができる情報

本体内（「最近の項目」アルバム内）の写真やビデオ（iCloud写真はバックアップ済）
インストールしたアプリとアプリのデータ
ホーム画面の配置
SMS、iMessageなどのメッセージ
着信音
ボイスメモ
Appleのサービスで購入した音楽や映画など
保存したパスワード
Webサイトの履歴
Wi-Fi設定
ヘルスケアデータ

● iCloudとiTunesでのバックアップの違い

iTunesでのバックアップでは、iCloudでバックアップできる情報に加え、「通話履歴」「壁紙設定」「カレンダーアプリのデータ」がバックアップできます。また、iCloudではバックアップで利用できる容量として、5GBまでは無料で使用できますが（有料で2TBまで拡張可能）、iTunesの場合は使用するパソコンの空き容量を利用できるので、動画など大容量のデータを無料でバックアップしたい場合は、iTunesのほうが適しています。また、iCloudでのバックアップや復元はWi-Fiしか利用できないので、パソコンと直接ケーブルを接続してデータをやり取りするiTunesよりバックアップや復元に時間がかかります。

Apple ID		iCloud
ホーム		☒
ヘルスケア		☒
Wallet		☒
Game Center		☒
Siri		☒
キーチェーン		オフ >
iCloudバックアップ		オフ >
iCloud Drive		☒
ブック		☒

● iCloudのストレージ容量について

iCloudのストレージ容量は、先ほど触れたように5GBまでは無料で利用することができます。5GBで写真や動画などのバックアップですぐにいっぱいになってしまう場合は、追加で容量を購入するかデータを減らす、またはiTunesでのバックアップに切り替えるなど、必要に応じて方法を変えましょう。iCloudのストレージ容量は、最大で2TBまで増やすことができます。

アップグレードの選択	
50GB	月額¥130
200GB	月額¥400 ファミリーと共有可能
2TB	月額¥1,300 ファミリーと共有可能

● Wi-Fiでバックアップを行う

iCloudでバックアップを行う際は大容量のデータ通信が発生するため、Wi-Fiを利用するのがよいでしょう。しかし、Wi-Fiを使ったバックアップは電波を経由するため、データが大きい場合は1GBあたり1～4時間、もしくはそれ以上かかってしまうことがあります。バックアップを行う前は、不要な写真・動画やアプリのデータを消す、または一部のデータを別の場所に移してから行うようにすると、よりスムーズにできます。

iCloud		バックアップ
バックアップ		
iCloudバックアップ		
		☒
このiPhoneが電源に接続され、ロックされ、Wi-Fiに接続されているときに、アカウント、書類、ホーム構成、および設定などのデータが自動的にバックアップされます。 詳しい情報...		
今すぐバックアップを作成		
最後に作成されたバックアップ: 昨日 20:21		